

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 35週 > 手足口病 定点当たり患者報告数は例年に比べてかなり多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

< 腸管出血性大腸菌感染症 > 第35週の報告患者総数は174
< 無菌性髄膜炎 > 第35週の報告患者総数は49で、定点当たり報告数は0.11



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 Vero毒素産生性大腸菌 / 手足口病 / ヘルパンギーナ / 無菌性髄膜炎 / 他



速報
P.6-7

インフルエンザ非流行期(8月)のB型インフルエンザウイルスの分離 - 静岡県 / 他



海外感染症情報
P.8

ミクロネシア連邦でのコレラ流行 - 更新 / 北アイルランドでのクリプトスポリジウム症流行 / 他



感染症の話
P.9-10

劇症型溶血性レンサ球菌感染症
日本での患者数は1992年以来100人を超える患者が確認されており、その致死率は極めて高い



読者のコーナー
P.11



グラフ総覧(35週)
P.12-18



35週のデータ
P.19-26



発生動向総覧

第35週コメント 9月11日集計分

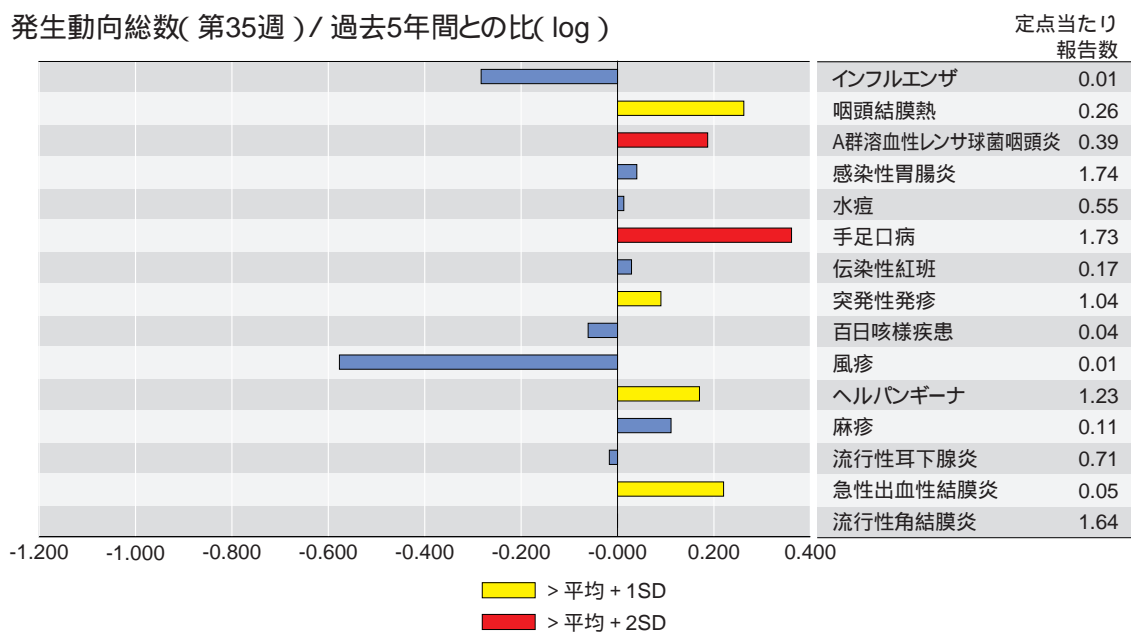
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ3例(推定感染地: 国内1例、フィリピン1例、不明1例)、細菌性赤痢18例(推定感染地: 国内1例、インド5例、インドネシア3例、カンボジア2例、カンボジアまたはタイ2例、タイ、中国、エジプト、ネパール、不明各1例)、腸チフス1例(推定感染地: モロッコ)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症174例
- 4類感染症: アメーバ赤痢2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、破傷風1例、急性ウイルス性肝炎6例
 - A型2例
 - B型3例__うち性行為感染1例
 - C型1例
- 後天性免疫不全症候群10例(無症候性キャリア7例、AIDS2例、その他1例)
 - 感染経路__母子感染1例、静注薬物使用1例、性行為感染8例うち異性間2例、同性間6例
- ジアルジア症1例、ツツガムシ病1例、デング熱1例(推定感染地: タイ)
- VRE2例、梅毒5例(早期顕性4例、晩期顕性0例、無症状1例、先天性梅毒0例)
- マラリア4例(三日熱マラリア2例__推定感染地: インド1例、パキスタン1例、熱帯熱マラリア1例__推定感染地: ガーナ、型不明・感染地不明1例)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

手足口病の定点当たり患者報告数が前週を上回り、例年に比べてかなり多くなっている。定点当たり報告数が多いのは、長野県、大分県、山形県、島根県で、定点当たり報告数はそれぞれ6.1、5.1、4.8、4.3となっている。咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、急性出血性結膜炎などの疾患も、例年の同時期に比べやや多くなっている。流行性角結膜炎は茨城県で依然定点当たり報告数6.2と多い(手足口病、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎の病原体については5ページ病原体情報参照)。

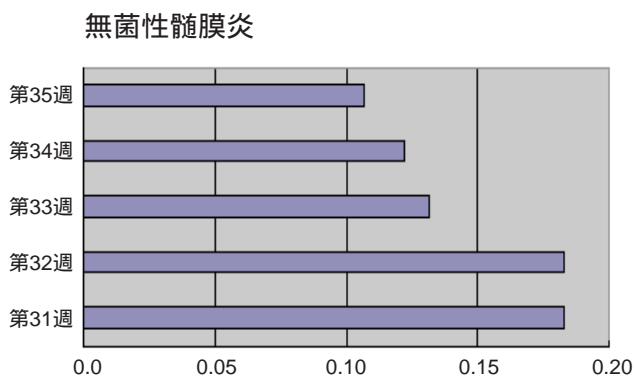
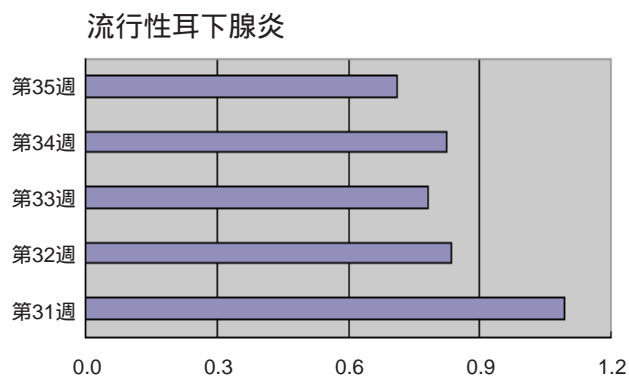
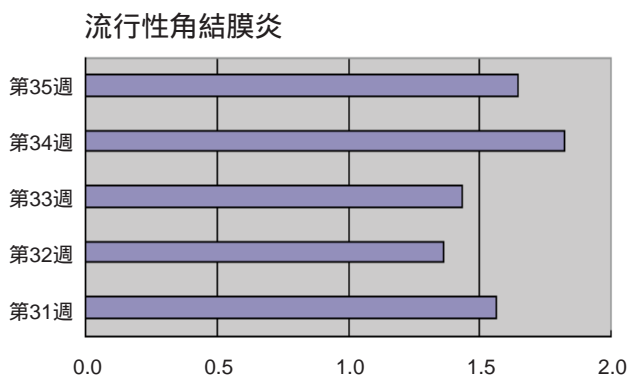
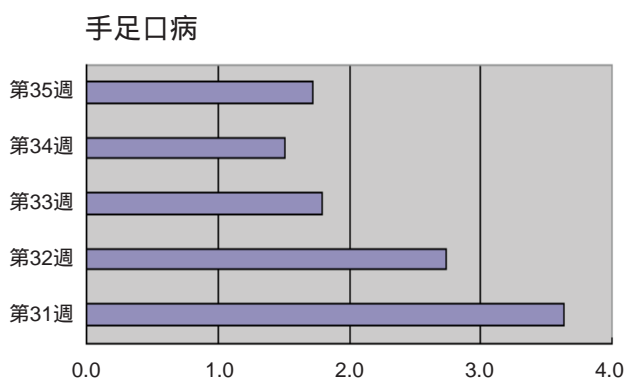
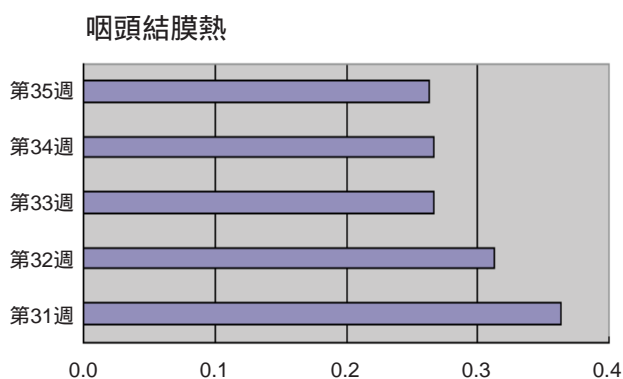
発生動向総数(第35週) / 過去5年間との比(log)



当該週と過去5年間の平均 (過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

最近の注目疾患-5週間の動き

手足口病は定点当たり報告数が第28週をピークに順調に減少傾向にあったが、第33週以降減少速度が鈍り、今週は前週の定点当たり報告数を上回った。咽頭結膜熱の定点当たり報告数はこの3週ほぼ横ばいとなっている。流行性角結膜炎と流行性耳下腺炎は前週より定点当たり報告数が減少した。無菌性髄膜炎は減少傾向にある。



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



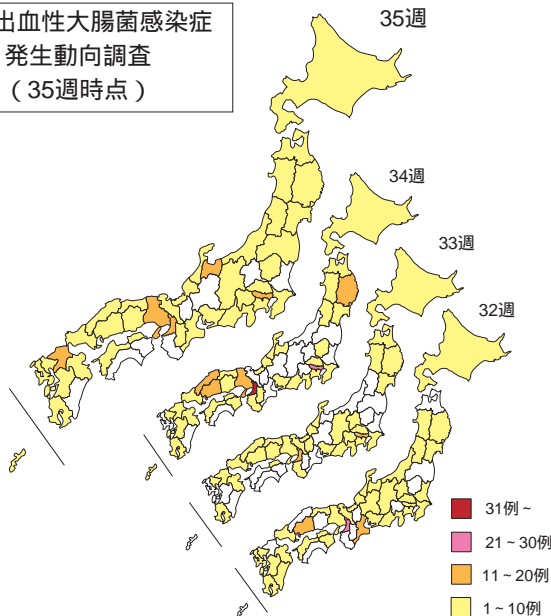
注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症流行状況

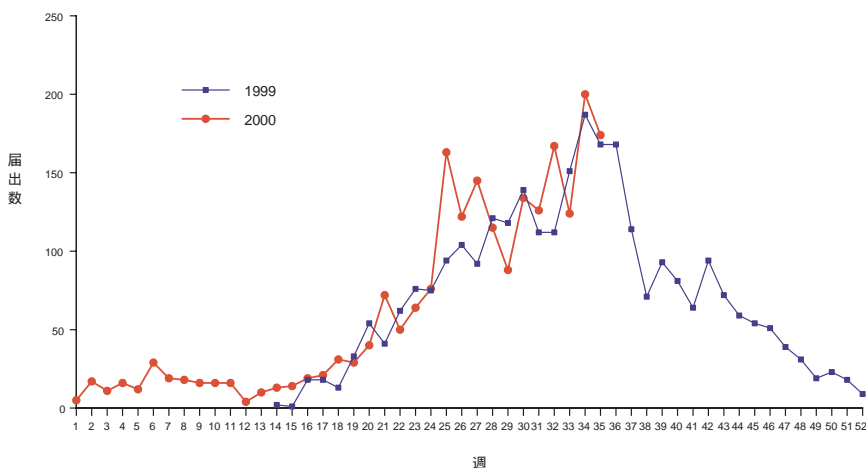
2000年第35週(8月28日 ~ 9月3日)の、腸管出血性大腸菌感染症報告総数(無症状病原体保有者含む)は174であった。

報告件数が多かったのは、大阪府(18)、福岡県(17)、東京都(13)、兵庫県(13)、富山県(13)などであった。このうち集団発生が確認できたのは、富山県の10例、兵庫県の4例などである。その他は家族内感染、及び散発例の集積であった(Vero毒素産生性大腸菌 O157、O26の検出状況については、5ページ病原体情報参照)。2000年第1週からの累積患者報告数は2,173となり、大阪府、東京都、神奈川県、愛知県、福岡県、兵庫県など大都市を含む都府県で累積報告数が多い。

腸管出血性大腸菌感染症
発生動向調査
(35週時点)



腸管出血性大腸菌感染症(無症状保有者含む)届出状況



無菌性髄膜炎流行状況

無菌性髄膜炎は基幹病院定点からの報告疾患で、その多くはウイルス性髄膜炎であるため、基本的な流行パターンは主流となるエンテロウイルスのそれに従う。すなわち、初夏から上昇し始め、夏から秋にかけて流行が見られる。今年も5月の連休明け頃より報告数が急増しており、第30週の定点当たり報告数0.24が現在のところピークとなっている。

第35週(8月28日 ~ 9月3日)の、全国定点医療機関からの無菌性髄膜炎患者報告総数は49で、定点当たり報告数は0.11であった。

患者の年齢階級別では、9歳以下の幼小児が全体の78%を占め、20歳以上の成人例は全体の16%である。

基幹病院定点からの病原体報告によると、今年第34週までに無菌性髄膜炎から分離されたウイルスで最も多かったのはEV71(92件)、次いでムンプスウイルス(78件)で、3位のエコー16型の9件、4位の水痘・帯状疱疹ウイルスの6件を大きく上回っている(病原体検出情報事務局に入った地方衛生研究所からの無菌性髄膜炎病原体情報については5ページ病原体情報参照)。



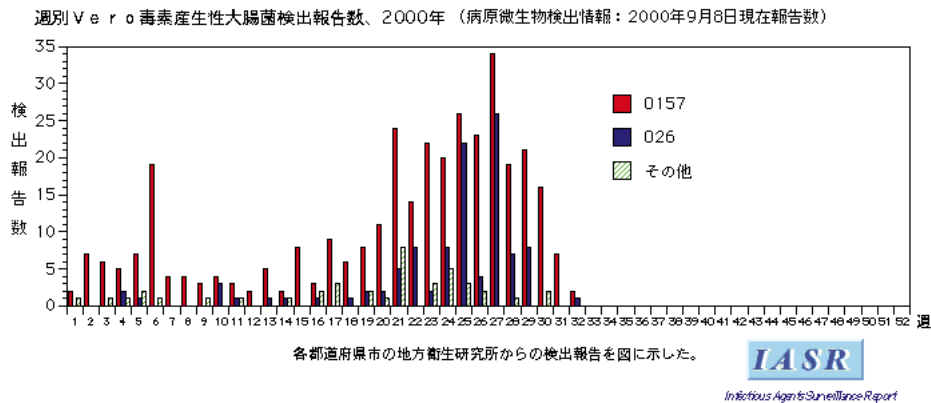
病原体情報

(2000年9月7日現在報告分)

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.gov/iasr/index-j.html>)からの引用です。

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26 2000年

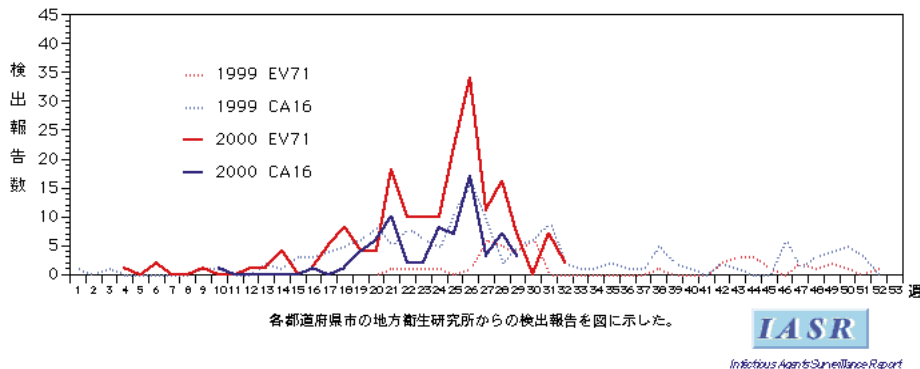
本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が345件、O26が106件である。O157は、大阪府(61)、富山県(20)、福岡市(20)、滋賀県(18)、札幌市(17)の順で報告数が多く、第31週以降では大阪府(3)、京都市(2)、浜松市(2)である。O26は、大阪府(23)、石川県(16)、岩手県(13)からの報告数が多く、第31週以降では京都市から1件の報告である。



手足口病患者から分離されたウイルス 2000年

エンテロウイルス71型(EV71)の分離は142件報告され、西日本からの報告が多く、第31週以降では愛媛県2、川崎市1の報告である。コクサッキーウイルスA16型(CA16)は70件報告され、山形県31、大阪府10の報告である。CA10は10件報告され、うち4件は東京都からの報告である。

週別エンテロウイルス71型、コクサッキーA16型分離報告数、年別比較(1999年、2000年)
(病原微生物検出情報: 2000年9月8日現在報告数)



ヘルパンギーナ患者から分離されたウイルス 2000年

A群コクサッキーウイルス(CA)108件(10型43、4型31、6型19、2型12、9型2、8型1)の分離が報告されている。

無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2000年

エコーウイルス(E)75件(9型17、25型16、11型13、3型12、6型6、18型5、30型4、4型1、17型1)、B群コクサッキーウイルス(CB)60件(5型18、4型15、3型12、1型11、2型3、6型1)、ムンプスウイルス22件、エンテロウイルス71型(EV71)22件、CA9型5件、CA10型2件の分離が報告されている。

咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス 2000年

アデノウイルス(Ad)52件(3型17、1型14、2型12、5型3、4型2、7型2、6型1、19型1)の分離が報告されている。

流行性角結膜炎から分離されたウイルス 2000年

アデノウイルス18件(3型4、8型3、19型3、4型2、11型2、37型2、2型1、7型1)の分離が報告されている。



インフルエンザ非流行期(8月)のB型インフルエンザウイルスの分離 - 静岡県

症例はニュージーランド在住の5歳女児で、2000年7月20日～25日までシドニーに滞在後、7月25日夜より島田市に帰省中であった。7月28日頃より発病し、発熱(40)と上気道炎を主訴として、8月3日に市立島田市民病院を受診した。家族等に同様の症状を呈した者はいなかったが、シドニーで熱性疾患が流行していたとの情報からインフルエンザを疑った。検体の咽頭ぬぐい液は8月3日に採取され、感染症発生動向調査の一環で当研究所に搬入されたもので、8月6日、MDCK細胞に接種してウイルス分離に供した。

培養3日目において、細胞変性効果(CPE)が認められ、培養上清のシチメンチョウ血球に対する血球凝集(HA)価は1,024/50 μ lであった。国立感染症研究所分与の1999/2000シーズン用検査キットを用い、分離株を抗原としてHI試験を行ったところ、抗B/山梨/166/98血清(ホモ価1:1,280)の抗体価は1:40、抗B/山東/07/97血清(ホモ価1:80)の抗体価は1:<10であった。

本症例の推定感染場所は、インフルエンザ流行シーズン中のシドニー、または飛行機内が最も疑われるが、入国後9日目に受診していること、その際に採材された咽頭ぬぐい液からウイルスが分離されたこと等から、国内で感染した可能性も考えられる。

静岡県環境衛生科学研究所 佐原啓二 長岡宏美 杉枝正明 秋山真人
市立島田市民病院 後藤幹生

(IASR9月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

エンテロウイルス71型による手足口病の流行 - 熊本県

本県においては、手足口病の定点当たりの患者数が2000年第15週まで漸次増加していたが、16週から流行の兆しが見えはじめた。その後、19週までは定点当たりの患者数は横ばい状態であったが、20週以降急激に増加し、全国平均より5週早く流行のピークを迎えた。

手足口病患者の検体搬入は7月末までに合計69検体あり、32検体(46%)からウイルスが分離された。ウイルス分離についてはIASR Vol.21、No.6に詳しく述べたが、すべてVero細胞で分離された。分離ウイルスは、27株がEV71、1株がエコー22型と同定された。ウイルスが分離された手足口病患者の主症状は、口内炎、発疹(主に水疱、まれに紅斑)であり、発熱の割合は約20%と低かった。

手足口病の流行に伴い、手足口病に起因する無菌性髄膜炎の患者数も増加した。感染症発生動向調査によると、5月の無菌性髄膜炎患者数45のうち、手足口病に関連するものは32(71%)、6月は64のうち38(59%)、7月は42のうち42(100%)であった。それらの無菌性髄膜炎患者は、発疹、口内炎、中枢神経症状として小脳失調症を伴っている症例が多く、発熱は39～40 と高熱であることが多かった。7月末までに咽頭ぬぐい液24検体、髄液56検体、便2検体が搬入され、11検体からウイルスが分離された。そのうちの9株が咽頭ぬぐい液から分離され、髄液からは1株しか分離できなかった。同定の結果6株(咽頭ぬぐい液5株、髄液1株)がEV71であり、残りの5株は現在同定中である。

本県においては1990、1993、1995および1997年に手足口病が流行しているが、1990年にはEV71が2株、1995年にはEV71が2株およびCA16が2株、1997年にはEV71が1株およびCA16が19株分離されている。過去においてはCA16と混合流行することが多かったが、本年はCA16は全く分離されず、EV71が流

行の病因ウイルスであると推察された。

熊本県保健環境科学研究所 西村浩一 松尾 繁 田端康二 甲木和子 橋本 朗
熊本県健康福祉部健康増進課 宮本清也

(IASR9月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

成人患者もみられた無菌性髄膜炎の地域流行 - 滋賀県

2000年5月16日、滋賀県感染症発生動向調査(県患者情報)の定点医療機関の医師から保健所に、「成人の無菌性髄膜炎(AM)患者が多い」との連絡があったことから、積極的疫学調査に入った。定点医療機関以外の情報も収集するため、彦根医師会会員全員および管内の入院施設のある3小児科、北部に隣接する保健所管内の1病院(小児科)に入院している患者などについて、疫学的背景を問い合わせた。対象となった地域は県東部に位置し、中核都市1市を含む7町、人口約15万人である。本報告は7月末までのデータである。

情報提供を受けた患者の数は、管外1名を含む成人28名、未成年者54名であった。患者発生は2000年11週 ~ 30週までで、増加は19週から始まり24週をピークとし、主たる流行は20週 ~ 26週、主に6月であった。成人患者は7月にはみられなくなった。滋賀県には7保健所があるが、患者が多発した20週 ~ 26週における県患者情報のAM患者数合計は、当該保健所以外では2.5人/定点、当該保健所管内では29人/定点と、地域的な偏りがみられた。管内の小児科は32学区あるが、患者居住地を学区別にみると、未成年患者数の最も多い学区は2学区あり、それぞれ8名であった。そのうちの1学区は、成人患者数が最も多く、10名であった。患者の年齢分布は10歳未満が多いが、成人患者では、未成年患者の親の年齢層にあたる30代が多かった。一部の成人患者からは家族の感染状況が得られ、家族内感染を思わせる例がみられた。夫婦ともに、あるいは31歳患者の場合は、別に住んでいる実妹(28歳)と実母もAMを発病、さらに子供に次いでAMを発病した母親の例があった。また、上気道症状や腹痛・下痢などの胃腸炎症状を示した患者もあった。

5月および6月に発病したAM患者14名について、髄液および咽頭ぬぐい液を用いてウイルス培養検査を実施した。5月の5名中2名、6月の9名中3名、計5名からエコーウイルス18型(E18)が分離され、他のウイルスは分離されなかった。年齢別では、10歳未満2名中1名、20代4名中1名、30代6名中2名および40歳以上2名中1名から分離された。材料別の内訳は、髄液13件中4件、咽頭ぬぐい液10件中1件からウイルスが分離された。ウイルス分離にはRD-18S、HeLa、Vero、FLの各細胞を用いて培養を行い、一部Veroでも分離されたが、ほとんどはRD-18Sで分離された。ウイルス同定のための中和反応には、国立感染症研究所から分与された抗血清EP-95を用いたが型別されず、デンカ生研製のプール抗血清のMおよび単味E18で型別された。

過去、滋賀県ではE18分離例は少なく、1988年に6株および1989年に3株あった後、1998年から毎年若干分離され、2000年に入ってから2月に痙攣重積の幼児から1株分離されている。また、エンテロウイルスの流行シーズンに入ってから、北部に隣接する保健所管内で、6月に2名から分離されているが、1名は発熱・上気道炎、他1名は症状不詳であった。

滋賀県立衛生環境センター 横田陽子 大内好美 吉田智子 辻 元宏
滋賀県彦根保健所 古池栄子 藤田悦子 角野文彦

(IASR9月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

ミクロネシア連邦でのコレラ流行 - 更新

WHO/CSR 2000年9月8日

ポンペイ州の公衆衛生当局は、4月17日に初めてコレラの流行を報告してから、8月21日までに死者15名を含む2,689名のコレラ患者を報告した。エルトール小川型のコレラ菌が分離された。

WHOとSPC(the Secretariat of the Pacific Community)の協力のもと、ミクロネシア連邦の公衆衛生当局は、まだコレラが確認されていない島に経口の生ワクチン(CVD-103HgR)を使用して、コレラ予防接種キャンペーンを実施することを決定した。いくつかの臨床研究では、このワクチン1回の使用で、7日後には70～90%の防御免疫が誘導されることが示されている。

流行はまだ続いているが、ポンペイ島に限られている。しかし、コレラ予防接種キャンペーンは、コレラが他の地域に広がらないように抑制する予防的な方法であり、安全な水、適切な衛生や環境的な措置などの一般的な予防法の代わりとはならないが、こうした特殊な状況の下では、コレラ流行の抑制に対して相補的な対策となる。

北アイルランドでのクリプトスポリジウム症流行

CDR Weekly 2000年9月8日

2000年8月17日から9月7日の間に北アイルランドで97例のクリプトスポリジウム症が確認された。北アイルランドの東部保健当局と水道局が疫学調査と水質検査を行った。

8月21日に一人の開業医が、8月19日と20日の週末に嘔吐と下痢で発症した10症例を報告した。同じ日に感染症管理部局の顧問がクリプトスポリジウム症の患者2名の報告を受け、水の追加サンプリング調査を始めるように水道局に助言した。検査室試験で診断が確定された21症例が、8月25日までにBelfastの南西の散在している地域から報告された。この時点では、オーシストが水のサンプルから見つかりなかったが、流行対策チームは調査を続ける一方で、感染の危険性が高い老人や基礎疾患のある人に用心するように呼びかけることに同意した。その後、地域の水道水サンプルからオーシストが続けて見つかったため、8月31日と9月1日に65,000人を対象に水を沸かして使うように通知が出された。水道システムの詳細な調査では、水のサンプルは浄水場では問題なかったが、汚水処理タンクに近接している地域の貯水場に接続する水道管の一部にクリプトスポリジウムの侵入がおきたものと判明した。

この水道管は1890年に造られ、農地の地下1メートルから8.5メートルを通っている。これまでクリプトスポリジウム症は、この給水地域とは関連がなかった。水道局は、現在建設中の新しいパイプラインを使って、現在ある水道管の一部を迂回させることを決定した。完成するまで約2週間かかる予定である。

西ナイルウイルス患者の増加 - アメリカ

Health Canada 2000年9月5日

9月5日までに西ナイルウイルス感染患者が8名確認された。6名がニューヨーク市スタテン島の住民で、残る2名がニューヨーク市ブルックリンとニュージャージー州のジャージー市の住民である。患者の年齢は61歳以上が6名で、残る2人が52歳と43歳である。1人が入院中であり、7人は自宅で療養している。



感染症の話

劇症型溶血性レンサ球菌感染症

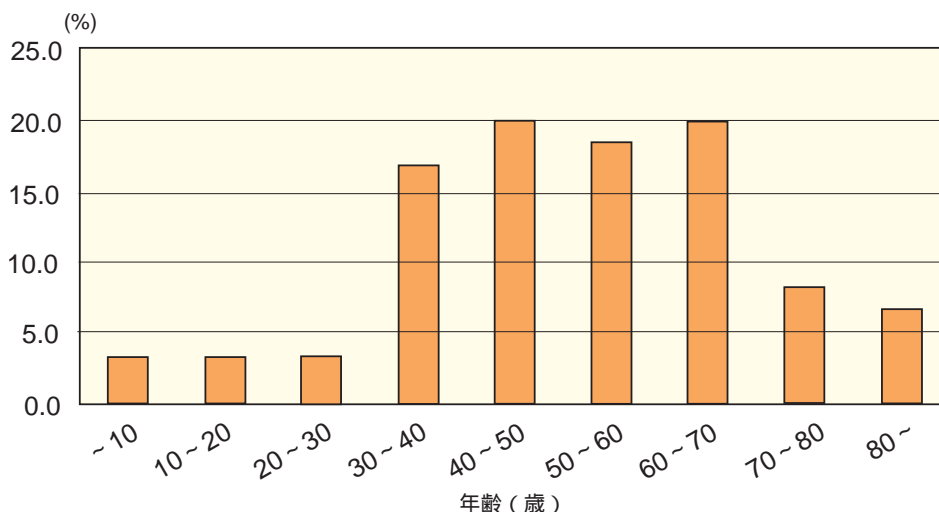
劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、突発的に発症し急速に多臓器不全に進行するA群レンサ球菌による敗血症性ショック病態である。メディアなどで「人食いバクテリア」といった病名で、センセーショナルな取り上げ方をされることがある。

疫学

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は1987年に米国で最初に報告され、その後、ヨーロッパやアジアからも報告されている。日本における最初の典型的な症例は1992年に報告されており、現在までに100人を超える患者が確認されている。そして、このうち約30%が死亡しているといきわめて致死率の高い感染症である。

A群レンサ球菌感染による一般的な疾病は咽頭炎であり、その多くは小児が罹患する。一方、劇症型溶血性レンサ球菌感染症は大人から子供まで広範囲の年齢層に発症するが、特に30-70歳代の大人に多いのがひとつの特徴である(図1)。

図1. 我が国における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者の年齢分布とその割合



病原体

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、A群レンサ球菌、*Streptococcus pyogenes* により引き起こされる。この*S. pyogenes* には数多くの表層抗原因子が知られている。このうちM蛋白質は、菌の疫学マーカーとしてよく用いられているが、宿主細胞への付着や抗貪食作用をもつ病原因子のひとつでもある。また同時に、感染防御抗原としても重要な機能を果たしている。

臨床症状

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者は、免疫不全などの重篤な基礎疾患をほとんど持っていないにもかかわらず、突然発病する例が多い。初期症状としては、咽頭炎、四肢の疼痛、発熱、血圧低下などで、発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、いったん発病すると数十時間

以内には軟部組織壊死、急性腎不全、成人型呼吸窮迫症候群(ARDS)、播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器不全(MOF)を引き起こし、患者をショック症状から死に至らしめる。

病原診断

通常無菌的である部位(血液、脳脊髄液、胸水、腹水、生検組織、手術創など)からA群レンサ球菌が検出される。劇症型溶血性レンサ球菌感染症の場合には、顕著な菌血症を示すので、血液のグラム染色標本を鏡検するとレンサ球菌が直接観察される。分離培地には血液寒天培地を用い、A群レンサ球菌はこの培地上で 溶血または 溶血を示す直径0.5mm以上のコロニーを形成する。菌は、グラム陽性の球菌で連鎖状の配列を形成し、カタラーゼ陰性である。その後、血清群別、糖分解試験等の生化学的性状試験や検査キットによりA群レンサ球菌であることを同定する。

治療

抗菌薬としてはペニシリン系薬が第一選択薬である。また、組織内の菌密度が上昇すると菌の発育が抑制され、β-ラクタム系薬の効果が低下する現象が知られており、劇症型溶血性レンサ球菌感染症のように極端な敗血症病態では細胞内移行性の高いclindamycinを推奨する意見もある。さらに免疫グロブリン製剤の効果も報告されている。

血圧維持には大量の輸液が必要であるが、輸液の許容範囲が狭いため、肺動脈圧の経時的観察が必要である。

壊死に陥った軟部組織は菌の生息部位であり、筋壊死による腎不全および代謝性アシドーシスの悪化を防止するため、可及的広範囲に病巣を切除することが必要である。

感染症法の中での劇症型溶血性レンサ球菌感染症の取り扱い

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、4類感染症のうち、全数届け出疾患に定められており、本症であることを診断した医師は診断から7日以内に保健所に届け出る必要がある。報告のための基準は以下の通りとなっている。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の3つの基準を全て満たすもの。

1. 血液または通常ならば菌の生息しない臓器からA群レンサ球菌を検出(末梢血塗抹標本または壊死軟部組織の鏡検によるレンサ球菌の確認も含む)
2. ショック症状
3. 多臓器不全(以下の症状のうち3つ以上)
肝不全、腎不全、成人型呼吸窮迫症、播種性血管内凝固症候群、軟部組織炎(壊死性筋膜炎を含む)、発疹、痙攣・意識喪失などの中枢神経症状。

(鑑別を要する病態)

1. A群レンサ球菌による軟部組織炎(丹毒)
2. 他の菌による敗血症または敗血症性ショック

(国立感染症研究所細菌部 池辺忠義)

読者のコーナー

東京都Oさん

米国ニューヨークなどで西ナイルウイルスが流行しているそうですが、日本で検査のできるところを教えてください。

西ナイル脳炎患者の診断の基礎となる血液中の抗体価は、同じフラビウイルスに属し症状も似ている日本脳炎ウイルスと交叉するので検査では両者の鑑別が重要です。現在、国立感染症研究所ウイルス第1部および長崎大学熱帯医学研究所などでこれらの鑑別診断が可能です。また、日本国内で西ナイル熱・脳炎が発生した場合に、患者サンプルを一般の血清検査ラボで検査した場合は日本脳炎と診断されてしまう可能性があります。一般的に日本脳炎ウイルスを媒介するコガタアカイエカは水田に発生しますが、西ナイル熱を媒介するイエカ類は都市部にも発生することから、日本国内で特に都市部で日本脳炎様症状を呈する患者が発生した場合などは、今後西ナイル熱脳炎も考慮にいれて検査依頼をする必要があると思われます。なお、現在までに日本国内では、西ナイル脳炎の患者発生は認められていません。

(長崎大学熱帯医学研究所 森田公一)

- 【問い合わせ先】
- ・長崎大学熱帯医学研究所 分子構造解析分野(ウイルス学)
〒852-8523 長崎市坂本町1-12-4
FAX : 095-849-7830 E-mail : moritak@net.nagasaki-u.ac.jp
 - ・国立感染症研究所ウイルス1部
〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1
FAX : 03-5285-1188 E-mail : takasaki@nih.go.jp

成田空港検疫所では、7月末より出国ゲートにアメリカ東海岸への旅行者に西ナイル脳炎についての警鐘ポスターを掲示していましたが、9月6日より、入国ブースに「アメリカ東海岸から帰国される方へ」というポスターを掲示し、「熱」等の症状の有る方、または蚊に刺されて心配な方に対して、血液検査をしますという呼びかけを実施しています。希望される方は成田空港検疫所健康相談室までお申し出下さい。なお、この検査は今年度の調査研究の一環として行なっているもので、今年の流行が終息したと思われる時期まで行なう予定です。

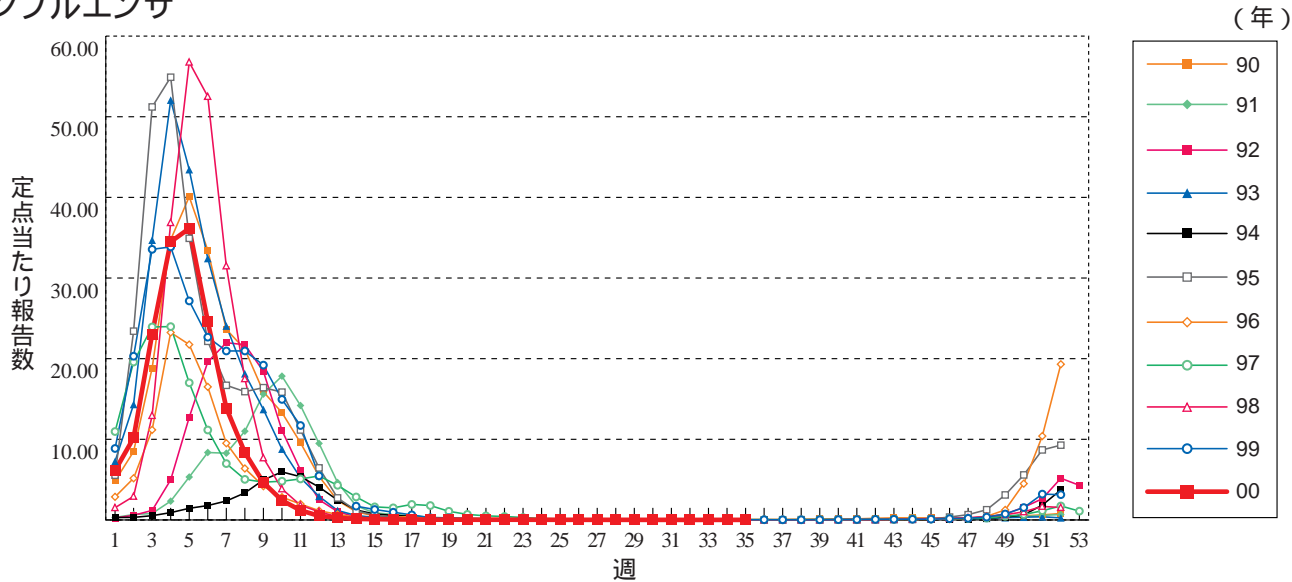
(国立感染症研究所 高崎智彦 倉根一郎)

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-QをつけてこちらまでEメールでどうぞ。

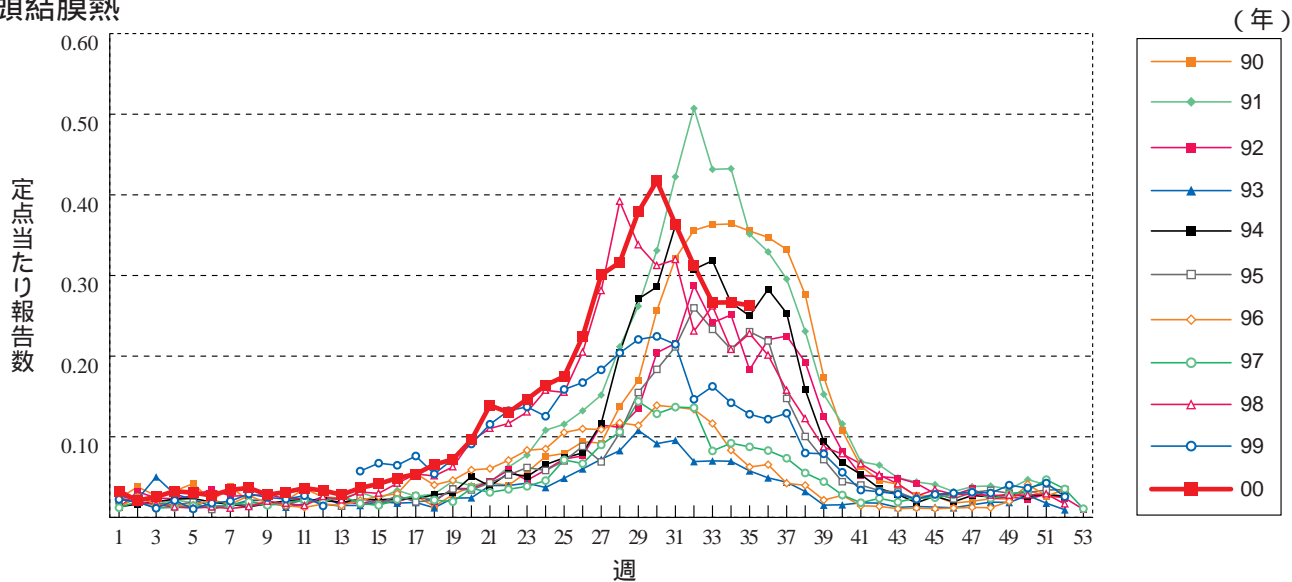
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(35週)

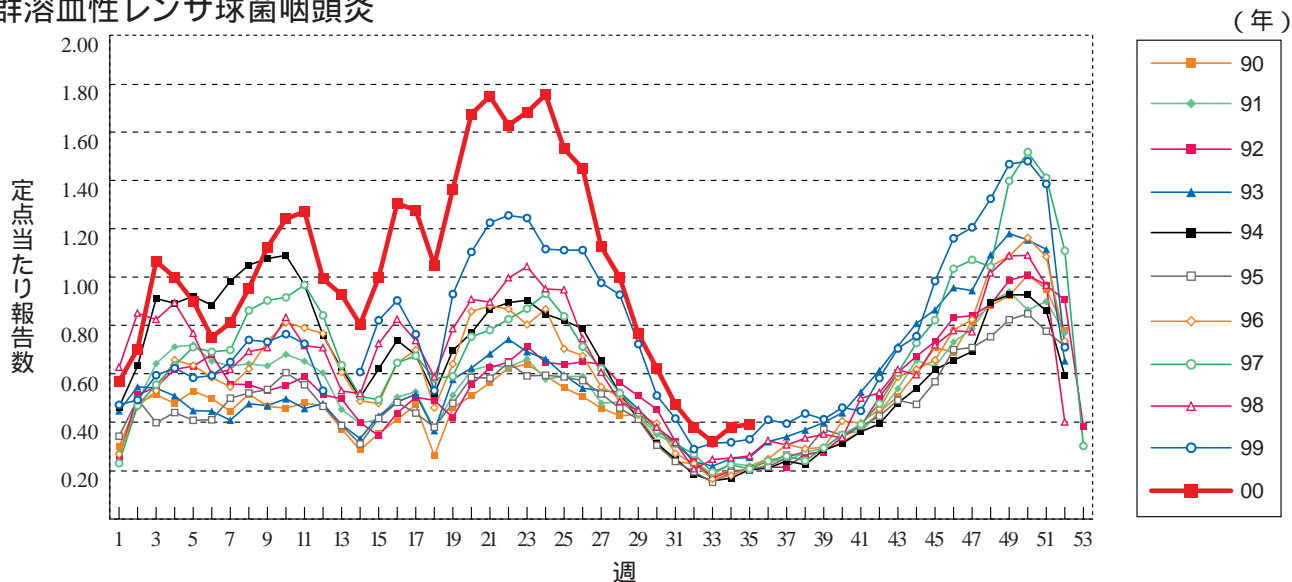
インフルエンザ



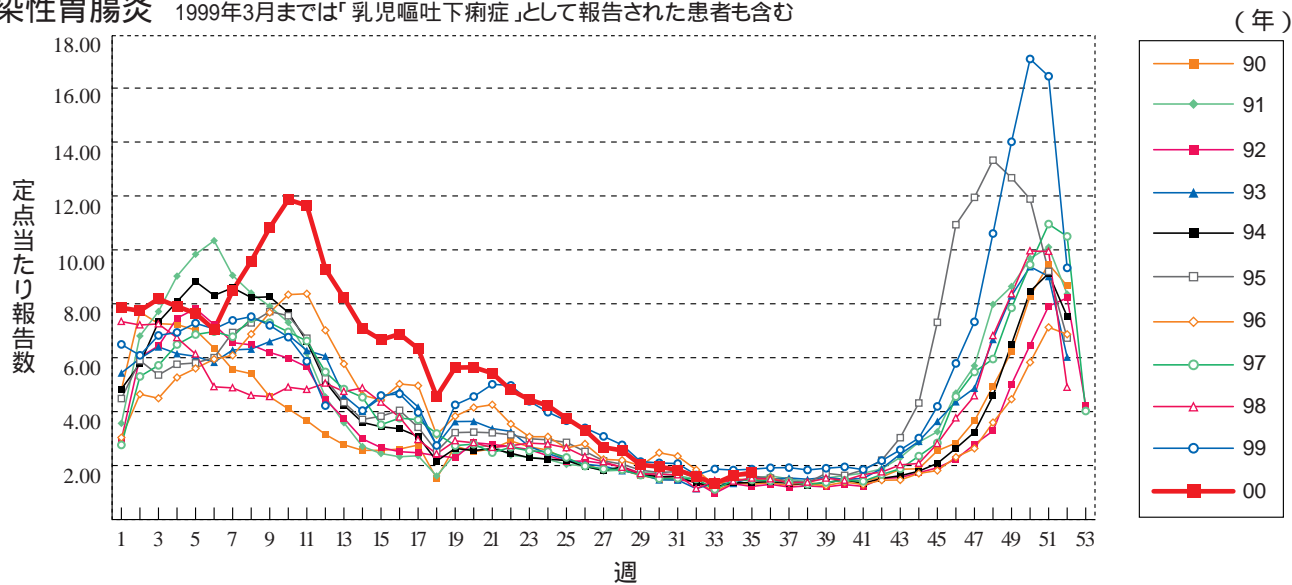
咽頭結膜熱



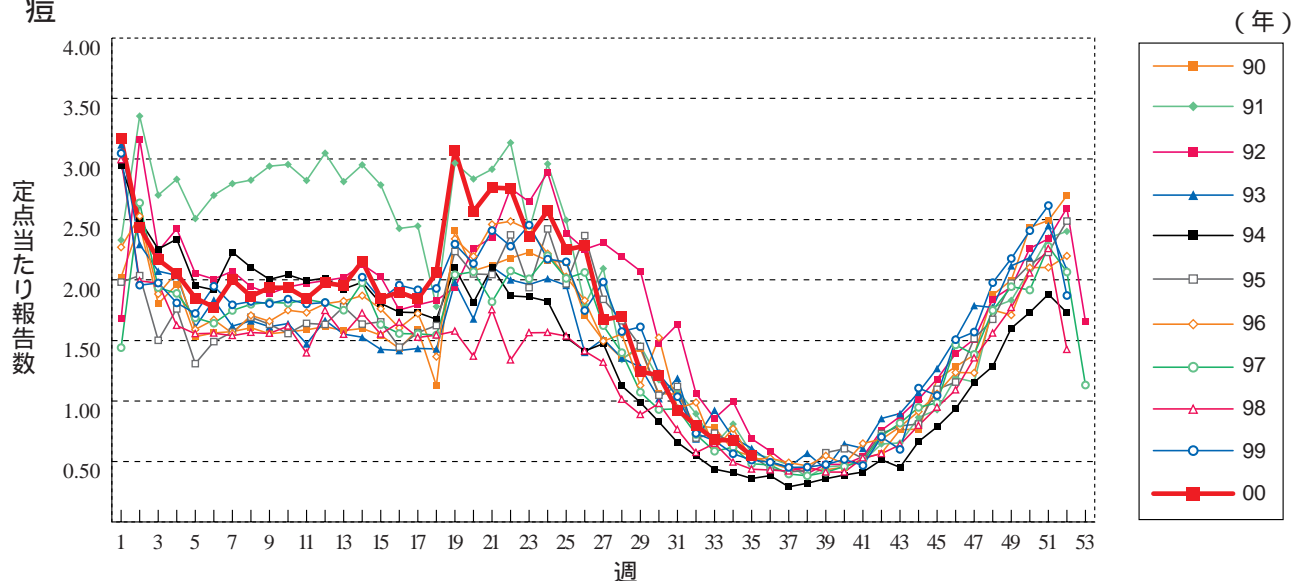
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



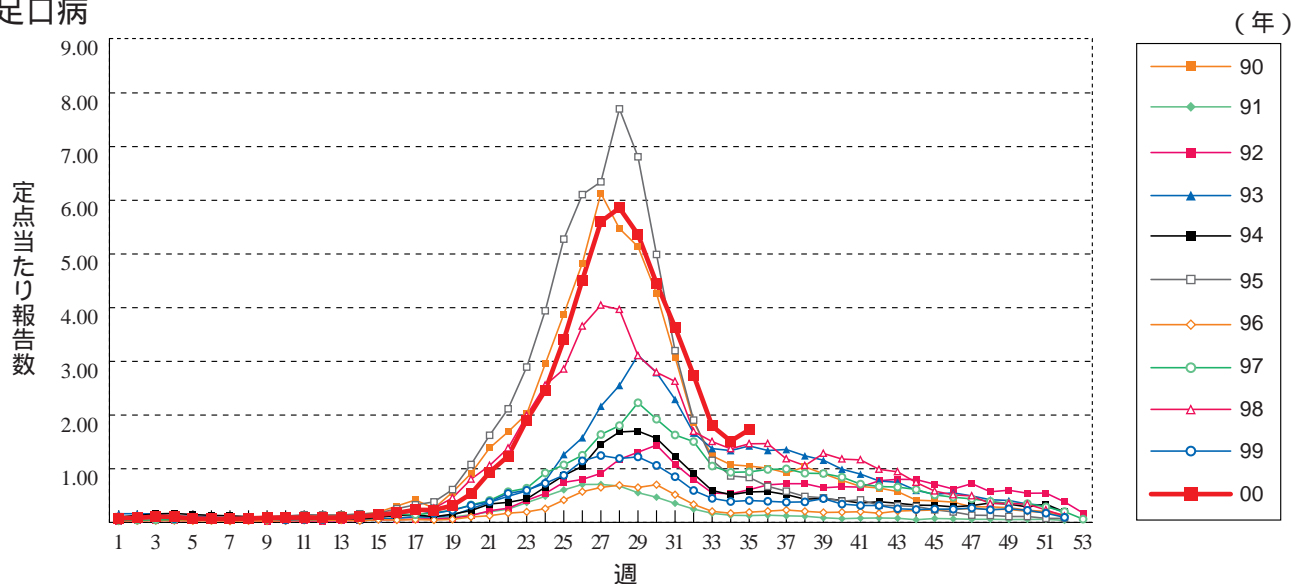
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



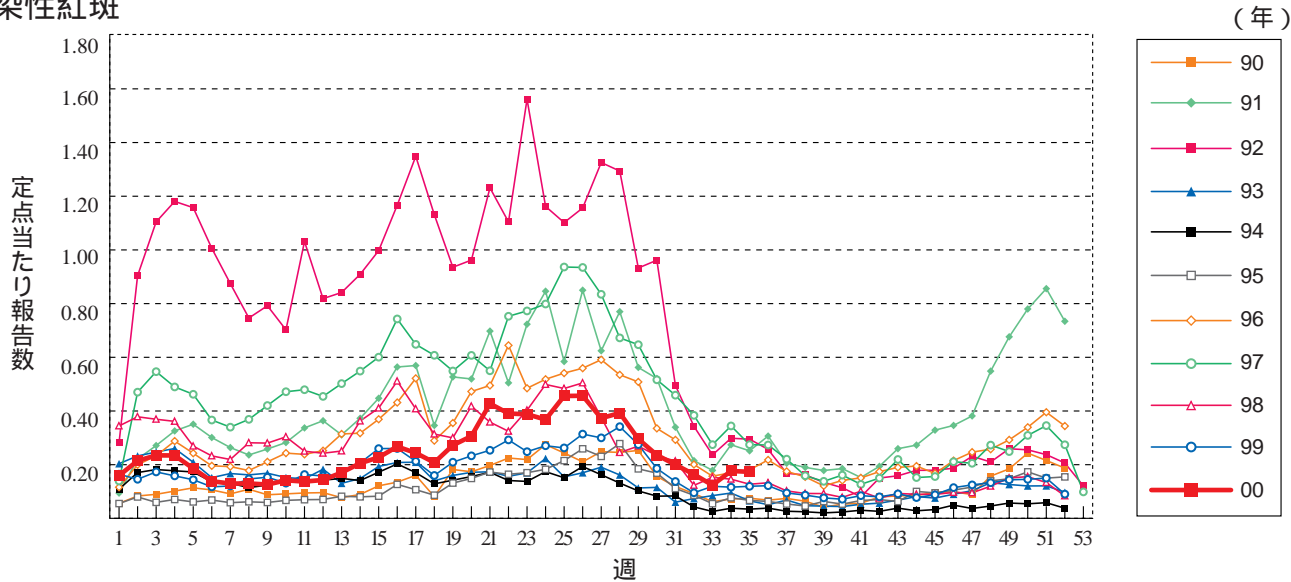
水痘



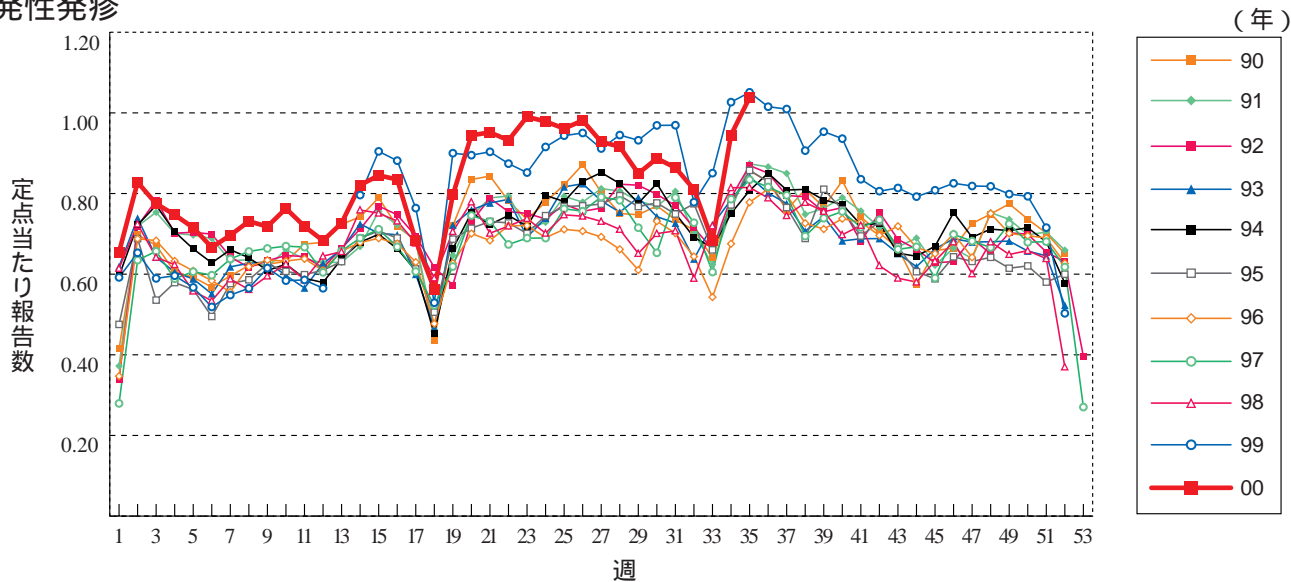
手足口病



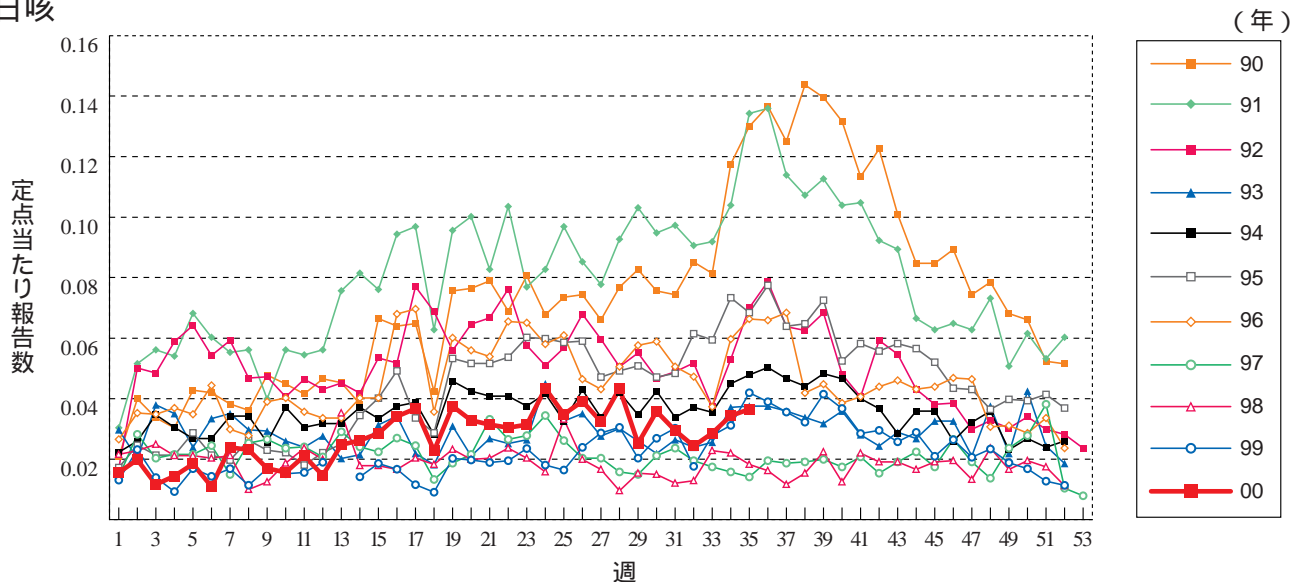
伝染性紅斑



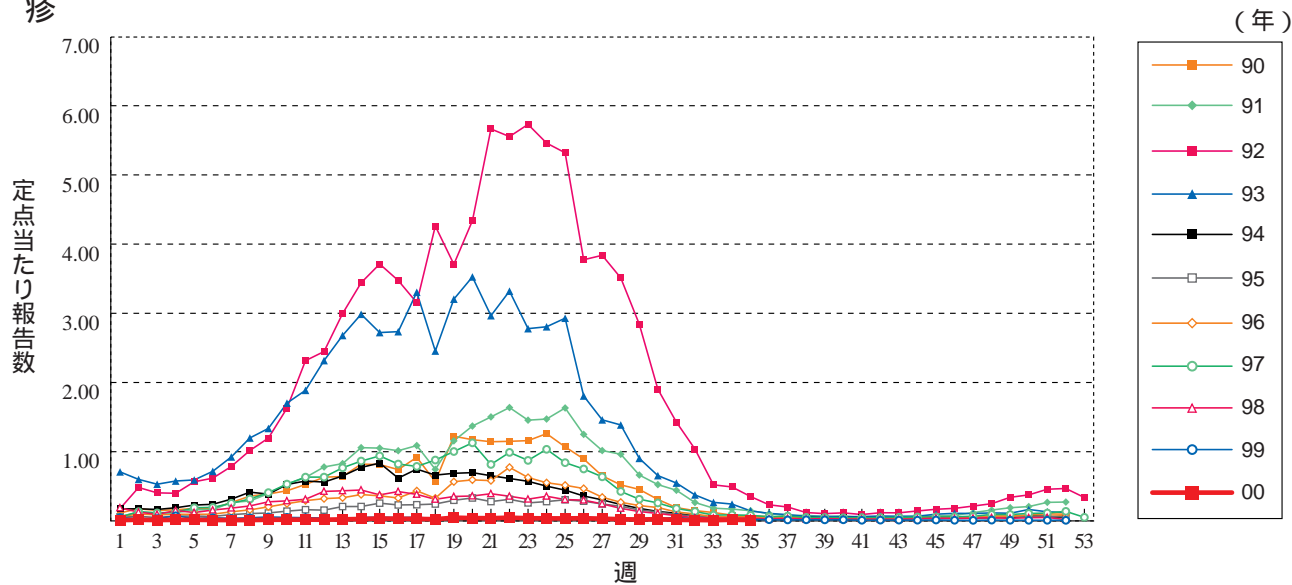
突発性発疹



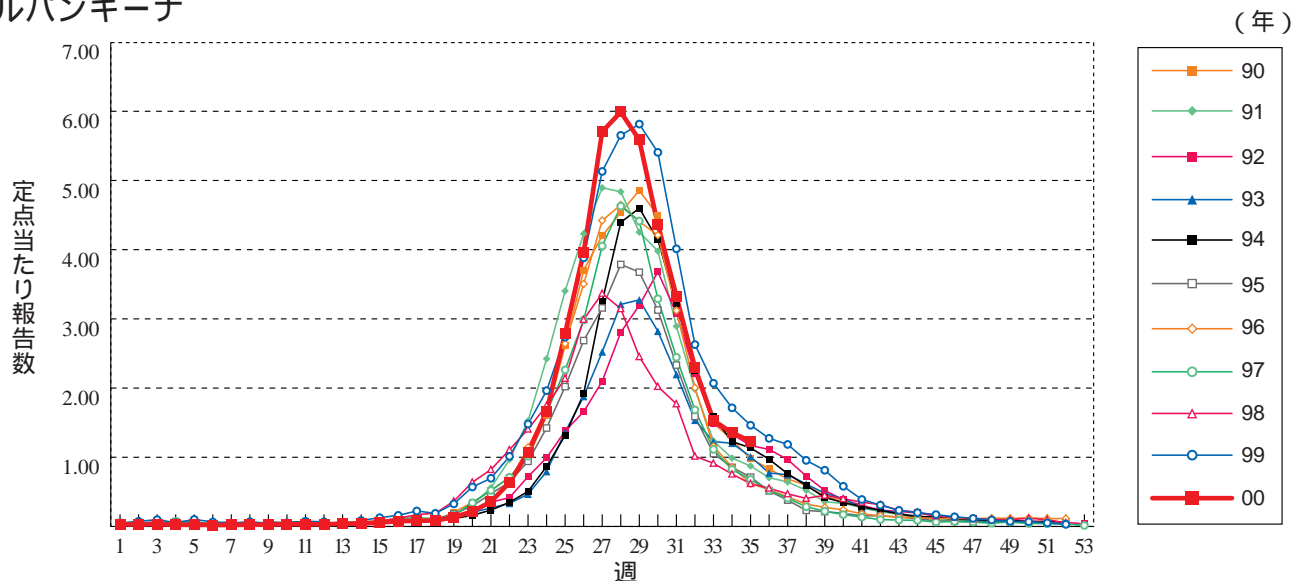
百日咳



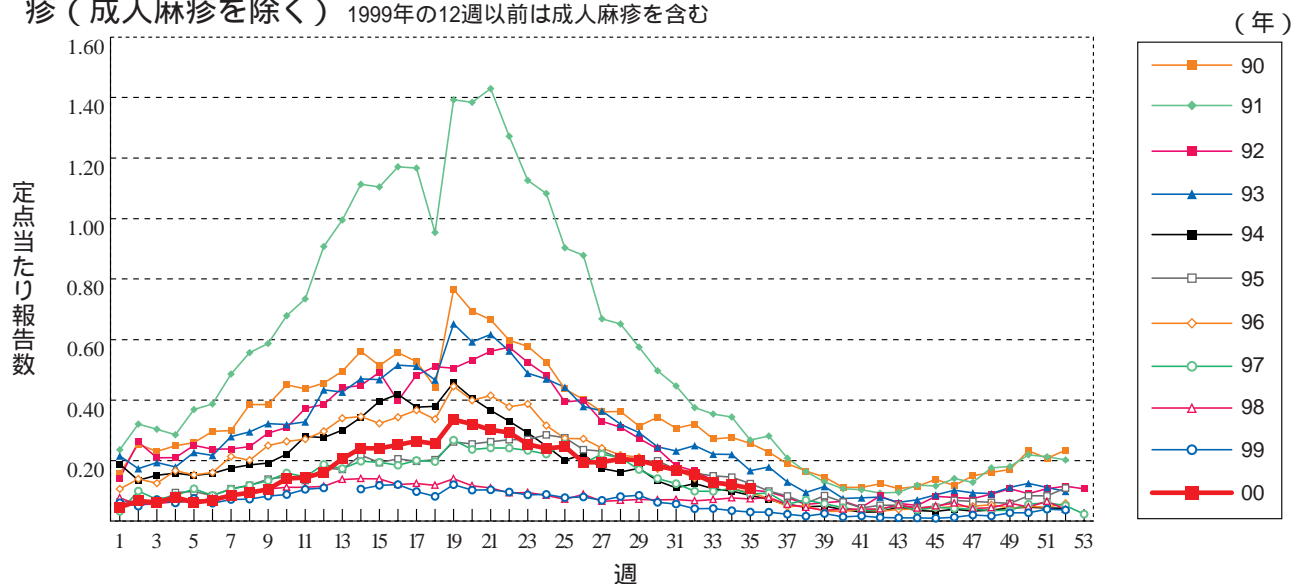
風 疹



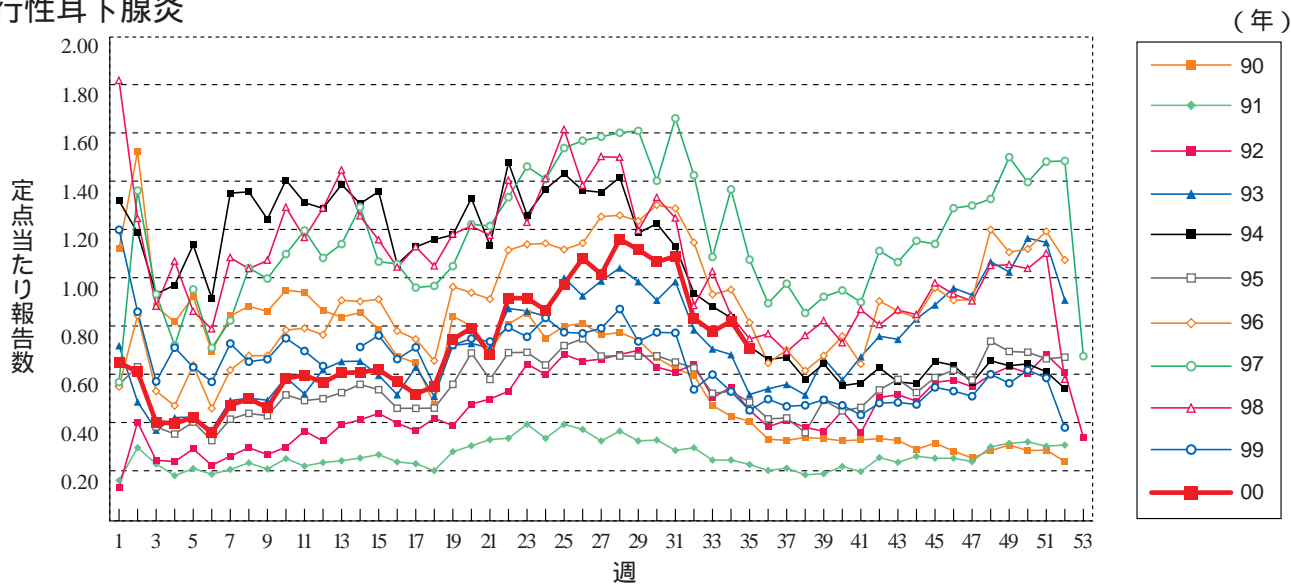
ヘルパンギーナ



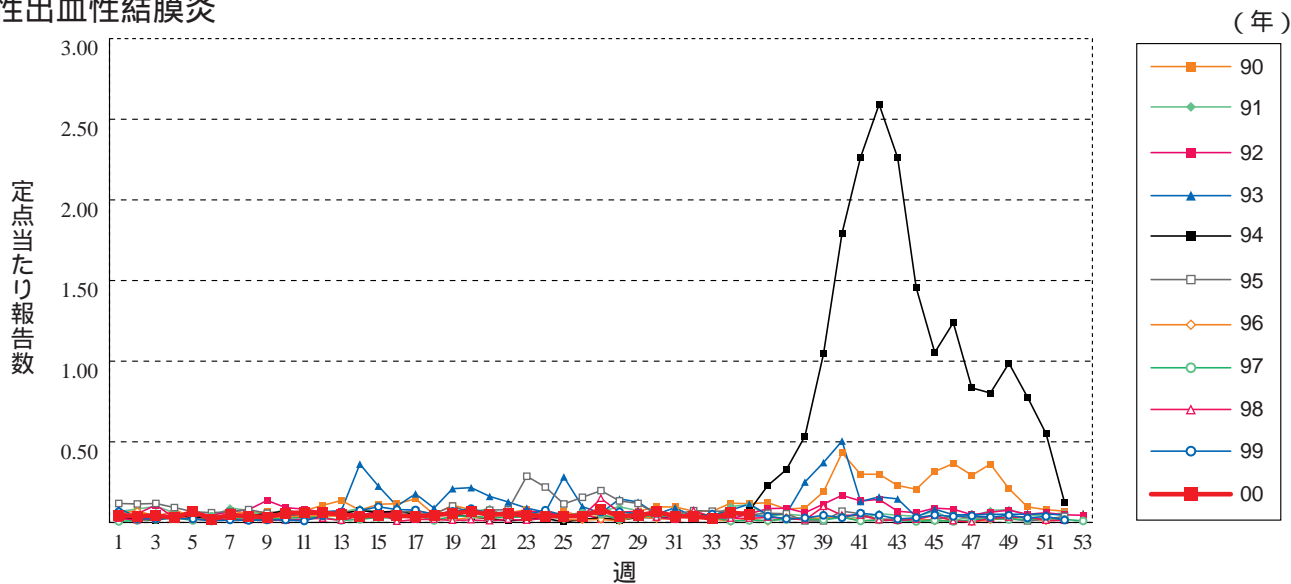
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



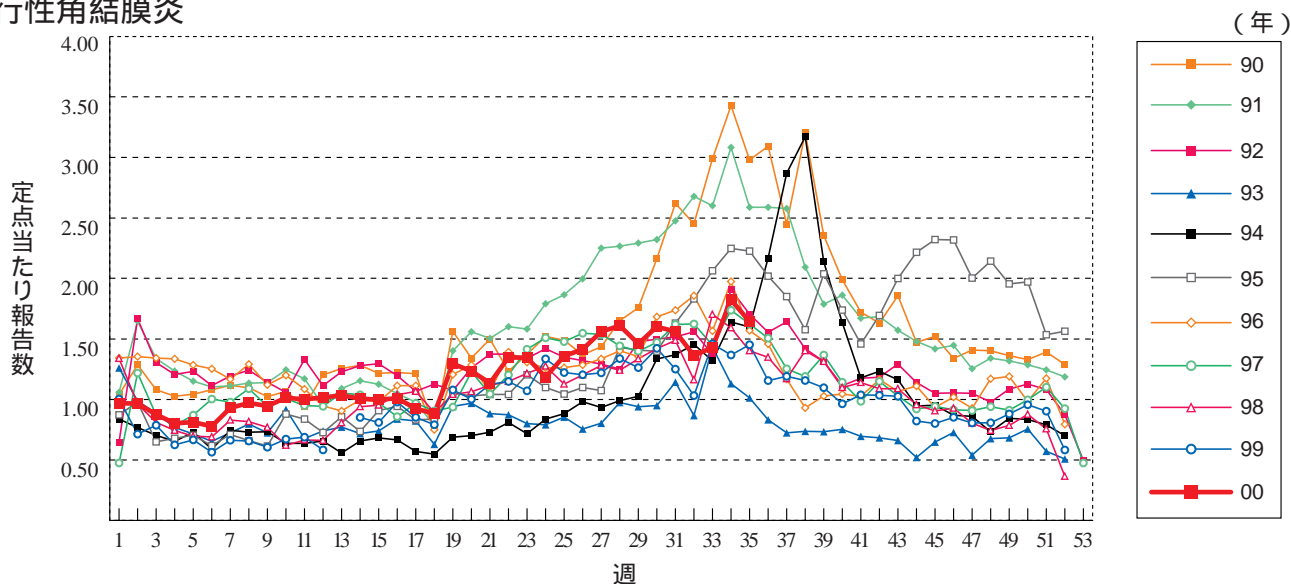
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

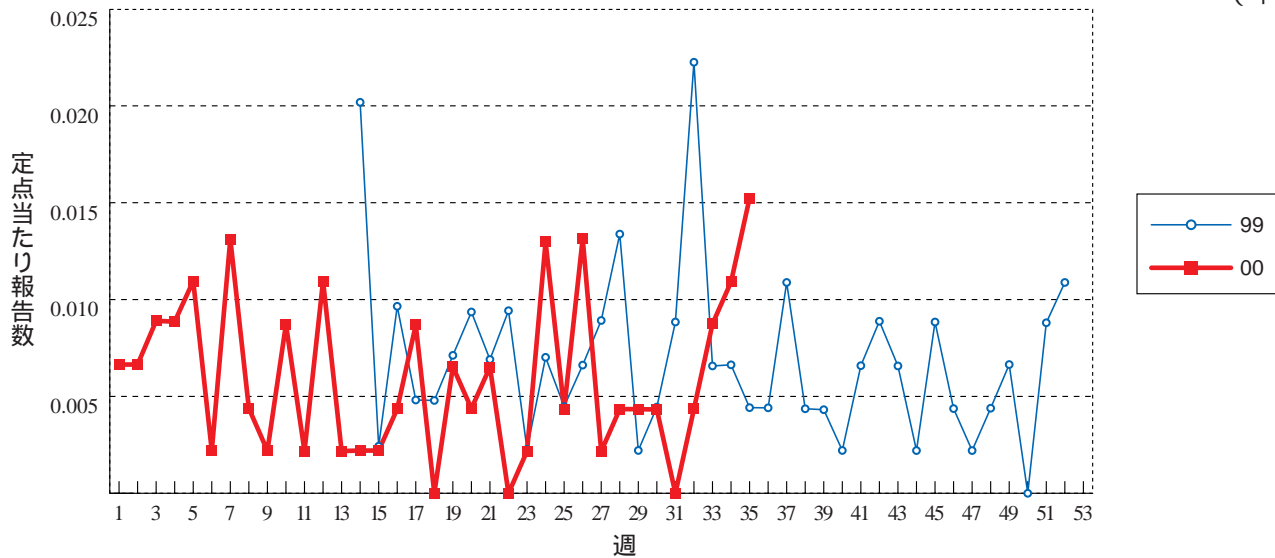


流行性角結膜炎



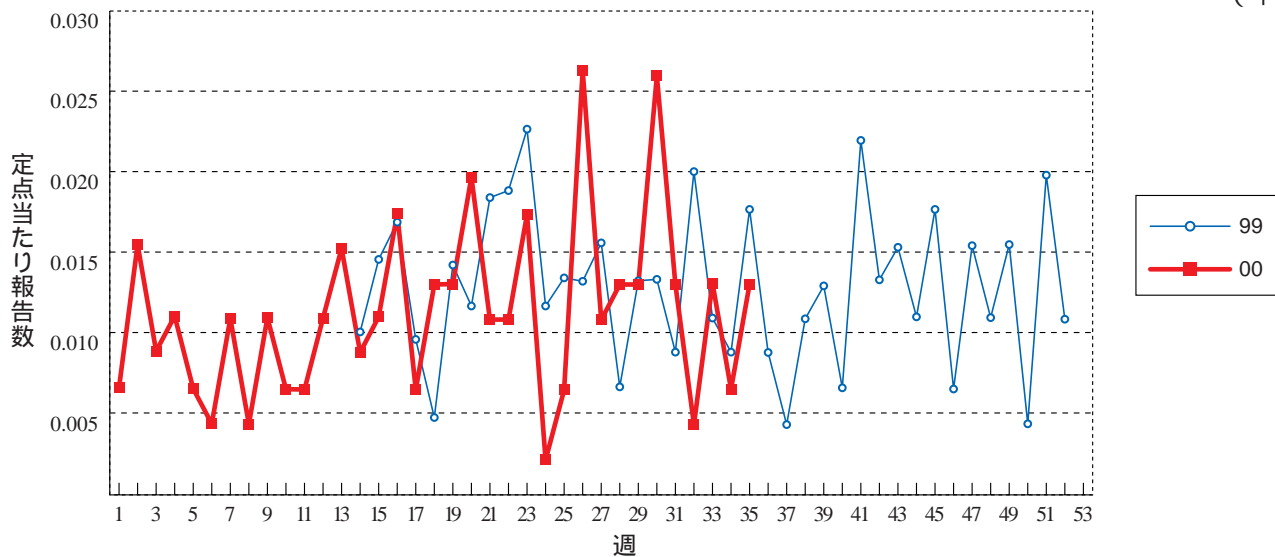
急性脳炎（日本脳炎を除く）

(年)



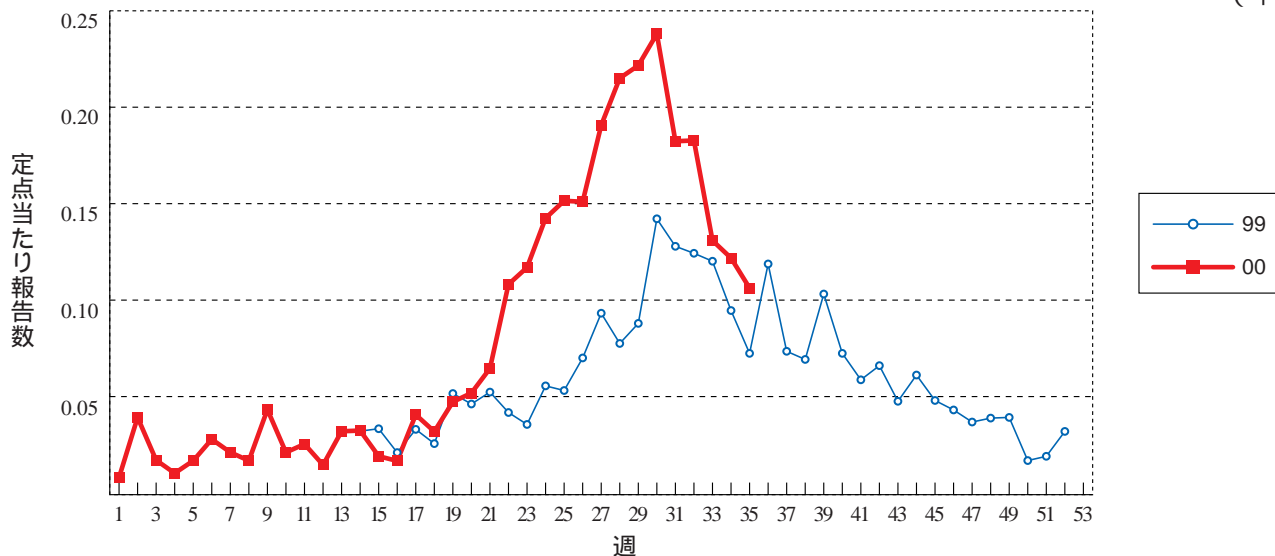
細菌性髄膜炎

(年)



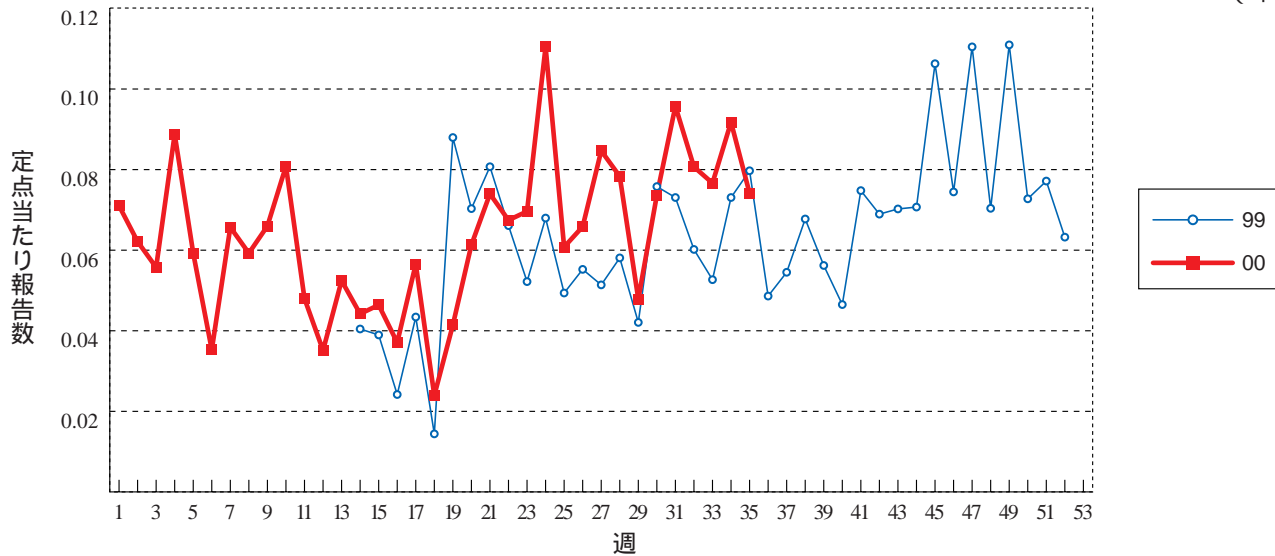
無菌性髄膜炎

(年)



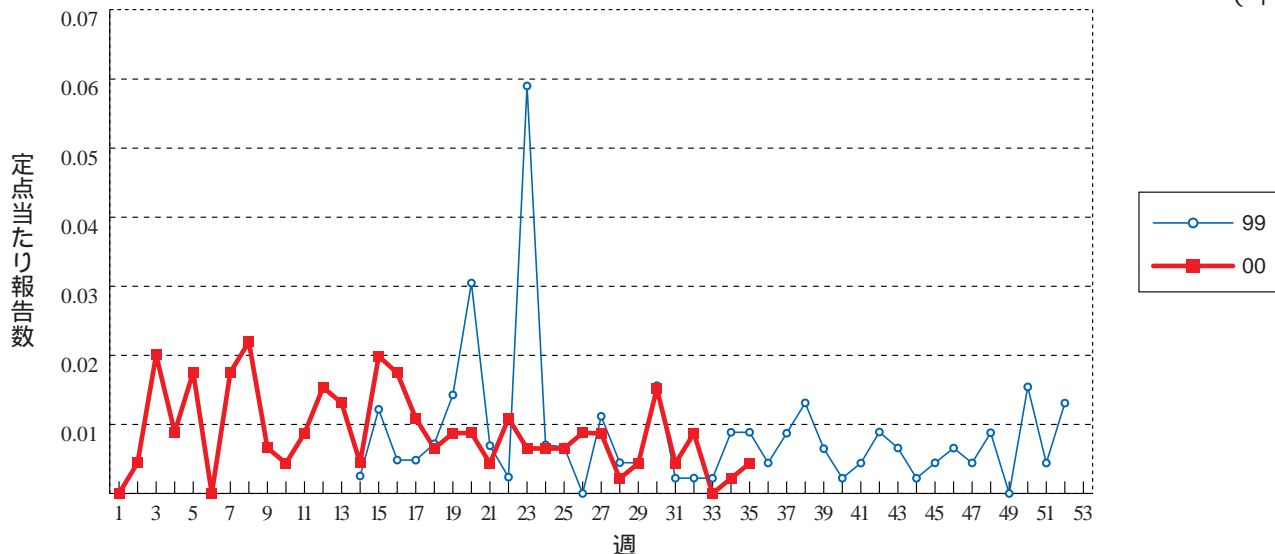
マイコプラズマ肺炎

(年)



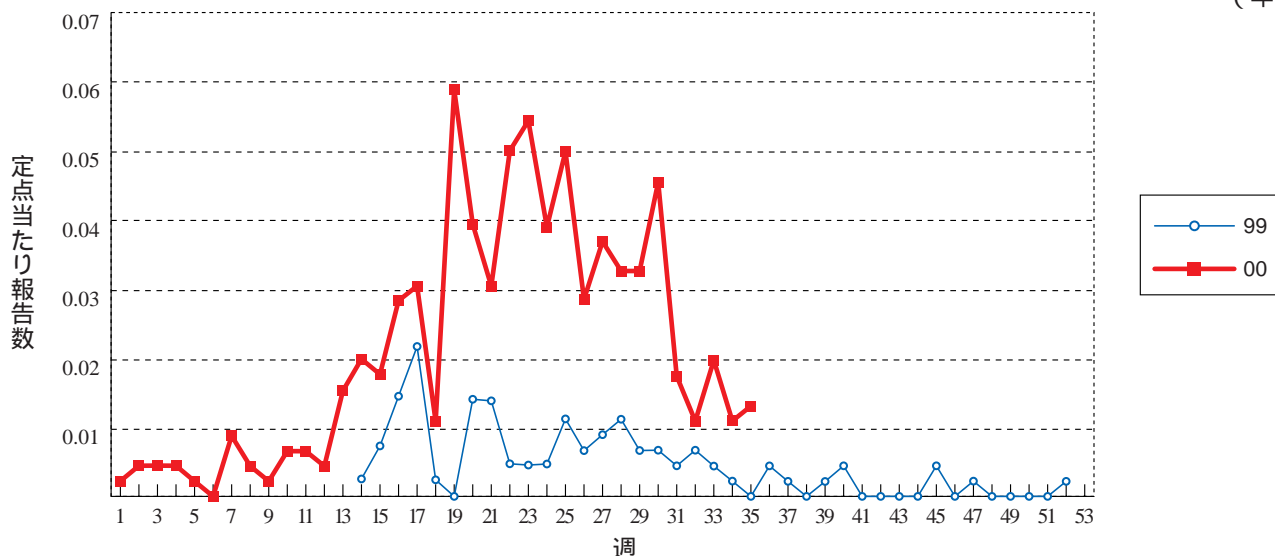
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





35週のデータ

注)表中の報告数は9月11日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年35週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	29	18	485	1	65	-	11
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	9	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	4	-	2	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15	-	3	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	15	-	4	-	2
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	5	95	-	11	-	4
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	33	-	4	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	9	-	3	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	34	-	5	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	16	-	1	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	47	1	7	-	3
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	16	-	7	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	13	-	3	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	1	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	25	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	16	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年35週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	1	-	1	174	2173	2	247	-	12	-	-	-	14	-	-	6	680
北海道	-	-	-	-	9	70	-	4	-	11	-	-	-	-	-	-	1	12
青森県	-	-	-	-	2	20	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
岩手県	-	-	-	-	5	84	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	4	43	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
秋田県	-	-	-	-	4	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
山形県	-	-	-	-	3	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	1	10	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	-	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
栃木県	-	-	-	1	1	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	-	15	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
埼玉県	-	-	-	-	3	54	-	8	-	-	-	-	-	2	-	-	1	8
千葉県	-	-	-	-	4	63	-	10	-	-	-	-	-	2	-	-	-	11
東京都	-	-	-	-	13	189	1	64	-	-	-	-	-	3	-	-	-	75
神奈川県	-	-	-	-	2	129	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
新潟県	-	-	-	-	2	13	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	13	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
石川県	-	-	-	-	5	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
福井県	-	-	-	-	2	13	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	1	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
長野県	-	-	-	-	2	19	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	14	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
静岡県	-	-	-	-	1	24	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
愛知県	-	-	-	-	5	129	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
三重県	-	-	-	-	4	33	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	24	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
京都府	-	-	-	-	1	24	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
大阪府	-	-	-	-	18	241	1	43	-	-	-	-	-	1	-	-	1	80
兵庫県	-	-	-	-	13	121	-	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	76
奈良県	-	-	-	-	3	17	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
和歌山県	-	-	-	-	-	34	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
鳥取県	-	-	-	-	1	23	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	1	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	3	53	-	4	-	-	-	-	-	2	-	-	-	24
広島県	-	-	-	-	6	89	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
山口県	-	-	-	-	3	24	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
香川県	-	-	-	-	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
愛媛県	-	-	-	-	1	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
高知県	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福岡県	-	-	-	-	17	130	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
佐賀県	-	-	-	-	2	27	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	6	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	5	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
大分県	-	-	-	-	1	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮崎県	-	1	-	-	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
鹿児島県	-	-	-	-	4	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
沖縄県	-	-	-	-	2	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年35週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	-	-	3	-	64	1	34	10	493	-	1	1	64	-	-
北海道	-	6	-	-	-	-	-	2	-	1	-	6	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	32	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	13	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	1	24	-	-	-	4	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	3	1	37	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	7	-	2	4	197	-	1	-	12	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	33	-	-	-	7	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	7	-	-	-	3	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	3	-	1	-	14	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	3	1	13	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	4	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	1	31	-	-	-	8	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	4	-	13	-	-	-	6	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	8	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年35週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	10	-	1	-	-	1	216	1	11	-	18	-	-	-	-	5	504
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	13
千葉県	-	2	-	-	-	-	1	9	-	-	-	5	-	-	-	-	-	19
東京都	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	2 78
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	20
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
大阪府	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	91
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	6	-	-	-	-	-	30
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	3	-	-	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 6
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1 2
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	42
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年35週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	63	2	21	-	-	-	-	-	-	-	-	4	109	-	9	-	116
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	9	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	3
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3
千葉県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3
東京都	-	5	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	46	-	-	-	7
神奈川県	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	10	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岐阜県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	26
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	3
兵庫県	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
佐賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年35週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	49	0.01	786	0.26	1171	0.39	5198	1.74	1631	0.55	5153	1.72	517	0.17	3102	1.04	109	0.04
北海道	-	-	10	0.07	76	0.52	176	1.21	58	0.40	513	3.54	40	0.28	126	0.87	1	0.01
青森県	2	0.03	1	0.02	29	0.71	19	0.46	39	0.95	98	2.39	13	0.32	30	0.73	1	0.02
岩手県	1	0.02	-	-	9	0.24	29	0.76	19	0.50	71	1.87	11	0.29	24	0.63	3	0.08
宮城県	2	0.02	1	0.02	13	0.22	152	2.58	20	0.34	64	1.08	22	0.37	71	1.20	8	0.14
秋田県	-	-	2	0.06	11	0.31	70	2.00	25	0.71	25	0.71	1	0.03	26	0.74	-	-
山形県	-	-	4	0.13	15	0.50	60	2.00	16	0.53	145	4.83	15	0.50	31	1.03	2	0.07
福島県	-	-	5	0.10	12	0.25	91	1.90	24	0.50	73	1.52	7	0.15	48	1.00	1	0.02
茨城県	1	0.01	2	0.03	23	0.32	145	2.01	29	0.40	88	1.22	7	0.10	49	0.68	1	0.01
栃木県	-	-	1	0.02	21	0.47	52	1.16	13	0.29	69	1.53	4	0.09	54	1.20	-	-
群馬県	-	-	7	0.11	45	0.73	100	1.61	24	0.39	46	0.74	8	0.13	62	1.00	2	0.03
埼玉県	3	0.01	26	0.16	71	0.45	280	1.77	77	0.49	277	1.75	21	0.13	170	1.08	3	0.02
千葉県	6	0.03	7	0.05	68	0.52	173	1.33	67	0.52	188	1.45	32	0.25	113	0.87	4	0.03
東京都	-	-	15	0.11	20	0.14	222	1.56	52	0.37	177	1.25	23	0.16	93	0.65	2	0.01
神奈川県	6	0.02	11	0.05	44	0.21	249	1.21	86	0.42	237	1.16	69	0.34	234	1.14	2	0.01
新潟県	-	-	5	0.08	35	0.58	83	1.38	44	0.73	127	2.12	6	0.10	53	0.88	7	0.12
富山県	-	-	13	0.45	12	0.41	40	1.38	9	0.31	89	3.07	-	-	24	0.83	-	-
石川県	-	-	6	0.21	3	0.10	97	3.34	16	0.55	73	2.52	3	0.10	28	0.97	2	0.07
福井県	-	-	2	0.09	8	0.36	94	4.27	20	0.91	46	2.09	1	0.05	18	0.82	-	-
山梨県	3	0.07	4	0.16	5	0.20	37	1.48	6	0.24	27	1.08	5	0.20	12	0.48	-	-
長野県	-	-	39	0.75	26	0.50	92	1.77	41	0.79	319	6.13	9	0.17	48	0.92	4	0.08
岐阜県	-	-	5	0.09	35	0.66	59	1.11	23	0.43	44	0.83	2	0.04	38	0.72	3	0.06
静岡県	-	-	59	0.69	26	0.30	166	1.93	36	0.42	202	2.35	12	0.14	128	1.49	4	0.05
愛知県	1	0.01	26	0.14	75	0.42	319	1.77	76	0.42	231	1.28	69	0.38	229	1.27	8	0.04
三重県	-	-	12	0.27	26	0.58	126	2.80	66	1.47	104	2.31	6	0.13	63	1.40	1	0.02
滋賀県	-	-	2	0.07	17	0.57	29	0.97	16	0.53	44	1.47	3	0.10	31	1.03	1	0.03
京都府	3	0.02	6	0.08	16	0.21	142	1.87	39	0.51	104	1.37	2	0.03	54	0.71	2	0.03
大阪府	-	-	74	0.39	58	0.30	283	1.48	99	0.52	122	0.64	4	0.02	185	0.97	8	0.04
兵庫県	-	-	68	0.54	23	0.18	283	2.23	78	0.61	302	2.38	13	0.10	149	1.17	4	0.03
奈良県	-	-	2	0.06	13	0.37	69	1.97	23	0.66	39	1.11	-	-	28	0.80	4	0.11
和歌山県	-	-	52	1.68	15	0.48	27	0.87	29	0.94	40	1.29	1	0.03	32	1.03	1	0.03
鳥取県	-	-	7	0.37	46	2.42	83	4.37	13	0.68	70	3.68	3	0.16	33	1.74	-	-
島根県	-	-	3	0.13	4	0.17	33	1.43	5	0.22	98	4.26	-	-	14	0.61	3	0.13
岡山県	-	-	20	0.37	23	0.43	82	1.52	28	0.52	64	1.19	9	0.17	47	0.87	1	0.02
広島県	-	-	58	0.77	27	0.36	140	1.87	27	0.36	116	1.55	5	0.07	66	0.88	6	0.08
山口県	-	-	16	0.33	17	0.35	116	2.37	51	1.04	118	2.41	1	0.02	78	1.59	1	0.02
徳島県	-	-	44	1.91	8	0.35	50	2.17	14	0.61	38	1.65	2	0.09	27	1.17	1	0.04
香川県	-	-	23	0.72	7	0.22	35	1.09	9	0.28	43	1.34	5	0.16	44	1.38	2	0.06
愛媛県	-	-	24	0.62	19	0.49	77	1.97	24	0.62	35	0.90	6	0.15	48	1.23	-	-
高知県	-	-	22	0.71	8	0.26	41	1.32	8	0.26	79	2.55	-	-	30	0.97	2	0.06
福岡県	-	-	11	0.14	38	0.48	232	2.94	64	0.81	49	0.62	15	0.19	108	1.37	2	0.03
佐賀県	-	-	-	-	9	0.39	30	1.30	17	0.74	9	0.39	12	0.52	51	2.22	-	-
長崎県	-	-	1	0.02	14	0.32	44	1.00	30	0.68	49	1.11	3	0.07	35	0.80	3	0.07
熊本県	1	0.01	12	0.24	19	0.39	59	1.20	44	0.90	30	0.61	13	0.27	62	1.27	-	-
大分県	-	-	48	1.33	21	0.58	131	3.64	56	1.56	183	5.08	20	0.56	66	1.83	2	0.06
宮崎県	-	-	22	0.59	30	0.81	116	3.14	32	0.86	97	2.62	6	0.16	47	1.27	1	0.03
鹿児島県	11	0.11	6	0.10	19	0.32	141	2.35	25	0.42	59	0.98	7	0.12	66	1.10	6	0.10
沖縄県	9	0.16	2	0.06	12	0.35	24	0.71	14	0.41	32	0.94	1	0.03	29	0.85	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年35週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	36	0.01	3684	1.23	323	0.11	2127	0.71	32	0.05	1034	1.64	7	0.02	6	0.01	49	0.11
北海道	-	-	294	2.03	6	0.04	119	0.82	-	-	32	1.10	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	104	2.54	1	0.02	40	0.98	-	-	12	1.09	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.03	48	1.26	3	0.08	16	0.42	-	-	10	0.83	-	-	-	-	-	-
宮城県	6	0.10	107	1.81	6	0.10	12	0.20	1	0.09	3	0.27	-	-	-	-	-	-
秋田県	1	0.03	80	2.29	3	0.09	20	0.57	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	58	1.93	-	-	5	0.17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 0.22
福島県	2	0.04	126	2.63	-	-	12	0.25	1	0.08	20	1.67	-	-	-	-	-	-
茨城県	4	0.06	48	0.67	8	0.11	39	0.54	-	-	99	6.19	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	24	0.53	2	0.04	7	0.16	1	0.08	20	1.67	1	0.17	-	-	-	-
群馬県	-	-	32	0.52	-	-	100	1.61	3	0.21	35	2.50	1	0.10	-	-	-	1 0.10
埼玉県	-	-	83	0.53	9	0.06	170	1.08	1	0.03	52	1.44	-	-	-	-	-	1 0.11
千葉県	1	0.01	72	0.55	9	0.07	84	0.65	4	0.12	67	1.97	-	-	-	-	-	-
東京都	4	0.03	125	0.88	11	0.08	81	0.57	-	-	22	1.57	-	-	-	-	-	2 0.08
神奈川県	3	0.01	161	0.79	17	0.08	186	0.91	1	0.02	44	1.05	-	-	-	-	-	5 0.45
新潟県	-	-	144	2.40	3	0.05	53	0.88	-	-	5	0.56	-	-	1	0.08	-	2 0.15
富山県	-	-	172	5.93	-	-	5	0.17	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	47	1.62	-	-	5	0.17	-	-	11	1.57	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	30	1.36	-	-	18	0.82	-	-	-	-	4	0.80	1	0.20	-	-
山梨県	-	-	46	1.84	2	0.08	8	0.32	-	-	1	0.33	-	-	1	0.10	-	4 0.40
長野県	-	-	289	5.56	1	0.02	22	0.42	1	0.10	16	1.60	1	0.09	-	-	-	2 0.18
岐阜県	1	0.02	50	0.94	11	0.21	45	0.85	3	0.25	21	1.75	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	109	1.27	8	0.09	95	1.10	-	-	37	1.76	-	-	-	-	-	4 0.44
愛知県	1	0.01	108	0.60	18	0.10	138	0.77	1	0.03	70	2.00	-	-	-	-	-	1 0.08
三重県	-	-	86	1.91	3	0.07	44	0.98	-	-	7	0.58	-	-	-	-	-	1 0.11
滋賀県	-	-	18	0.60	2	0.07	13	0.43	-	-	10	1.43	-	-	-	-	-	3 0.50
京都府	2	0.03	48	0.63	5	0.07	17	0.22	1	0.06	21	1.17	-	-	-	-	-	-
大阪府	2	0.01	130	0.68	33	0.17	96	0.50	4	0.08	64	1.23	-	-	-	-	-	-
兵庫県	1	0.01	81	0.64	12	0.09	81	0.64	1	0.03	44	1.26	-	-	-	-	-	1 0.07
奈良県	1	0.03	10	0.29	13	0.37	18	0.51	-	-	26	2.89	-	-	-	-	-	1 0.17
和歌山県	-	-	25	0.81	2	0.06	6	0.19	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	18	0.95	-	-	25	1.32	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	2 0.40
島根県	-	-	29	1.26	2	0.09	22	0.96	-	-	7	2.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	37	0.69	9	0.17	28	0.52	-	-	15	1.25	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	70	0.93	14	0.19	55	0.73	-	-	37	1.85	-	-	-	-	-	5 0.24
山口県	-	-	66	1.35	11	0.22	85	1.73	2	0.22	20	2.22	-	-	-	-	-	1 0.13
徳島県	-	-	48	2.09	-	-	1	0.04	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	51	1.59	3	0.09	28	0.88	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	67	1.72	3	0.08	12	0.31	-	-	20	2.86	-	-	-	-	-	1 0.17
高知県	-	-	66	2.13	26	0.84	23	0.74	-	-	8	2.67	-	-	-	-	-	1 0.14
福岡県	-	-	68	0.86	21	0.27	72	0.91	1	0.06	70	3.89	-	-	2	0.13	-	1 0.07
佐賀県	-	-	34	1.48	1	0.04	27	1.17	-	-	6	1.50	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	26	0.59	3	0.07	10	0.23	4	0.50	26	3.25	-	-	-	-	-	-
熊本県	1	0.02	113	2.31	1	0.02	108	2.20	2	0.22	25	2.78	-	-	1	0.07	-	4 0.27
大分県	-	-	56	1.56	30	0.83	32	0.89	-	-	5	1.00	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	114	3.08	5	0.14	23	0.62	-	-	5	1.25	-	-	-	-	-	1 0.14
鹿児島県	3	0.05	52	0.87	1	0.02	13	0.22	-	-	8	1.60	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	14	0.41	5	0.15	8	0.24	-	-	22	2.20	-	-	-	-	-	3 0.43

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成12年35週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	34	0.07	2	0.00	6	0.01
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-
宮城県	6	0.50	-	-	-	-
秋田県	4	0.50	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	1	0.17	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.08	-	-	1	0.08
東京都	1	0.04	-	-	1	0.04
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	1	0.08
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	2	0.40	-	-	-	-
福井県	3	0.60	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	2	0.15	-	-	-	-
三重県	3	0.33	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	1	0.07
奈良県	1	0.17	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	-	-
広島県	1	0.05	-	-	1	0.05
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	0.17	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	2	0.33	-	-	-	-
高知県	2	0.29	-	-	1	0.14
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	1	0.17	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	1	0.07	1	0.07	-	-
大分県	2	0.22	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第2巻、第35号 平成12年9月18日発行
 発行：国立感染症研究所

厚生省保健医療局結核感染症課
 厚生省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 < 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhw.go.jp/>
 < 厚生省 >
<http://www.narita-airport.or.jp/quarantine/>
 < 成田空港検疫所 >
<http://www.forth.go.jp/>
 < 旅行者のための海外感染症情報 >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。